

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「誠実・創造・勤勉」のもと、昭和35年（1960年）創立の歴史ある工業高校として、技術革新の急激な変化の時代にあって、生涯を通じ学び続ける力を備え、自立心・コミュニケーション力・創力を身につけ、産業界の未来を担うとともに社会に貢献できる人物を育成する。
以下に「本校が育てたい生徒像」を具体的に記す。

- 1 「ものづくり」を通して学ぶことを楽しむ生徒
- 2 自己肯定感を高く持てる生徒
- 3 協働して目標を達成できる生徒
- 4 自立して自ら未来を切り拓いていくことのできる生徒
- 5 より良い社会を創っていきたいと考える生徒

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

（1）ICTを活用するなどして、生徒一人ひとりの能力に寄り添った「わかる授業」を行うことにより基礎学力の向上を図る。

（2）「主体的・対話的で深い学び」を通じて、「生徒の興味関心を高める授業」を研究・実践する。

（3）専門分野の技術・技能の向上を図る。また、社会の要請に応える新たな「ものづくり教育」に挑戦していく。

○令和5年度学校経営推進費「東淀ロボット人材創出計画ーロボットSIerの育成」

令和7年度成果の検証方法と評価指標

- ①国家資格技能検定シーケンス制御作業受験者数（20名以上）
- ②ロボットS I 検定受検者（20名以上）
- ③「高校生ロボットインテグレーション競技会」入賞
- ④「ロボットアイデア甲子園！」全国大会出場
- ⑤新工業系高等学校ロボティクス系列の実習カリキュラムのシラバス完成

*学校教育自己診断(生徒向け)【以下「生徒アンケート」と表記】の「授業の分かりやすさ・教え方の工夫」について、R8年度には肯定的回答85%以上とする。

(R3 86.9% R4 86.6% R5 83.9%)

*各教科における授業アンケートの結果において「授業について興味・関心が高まった」についての肯定的回答をR8年度には85%以上とする。

(R3 83.3% R4 81.0% R5 83.0%)

2 安全・安心な学校づくり

（1）学校が生徒の「居場所」となり、生徒が安心して学ぶことができる環境づくりを行う。

（2）生徒情報の組織的な集約・共有化を図り、生徒一人ひとりを細やかに指導する体制を構築する。

（3）人権教育・安全教育を一層充実させ、生徒が人権を尊重し、互いを大切にする精神と態度を培う。

（4）生徒の健康管理・安全衛生の意識を高め、健康的な生活習慣を培う。

*R8年度には中途退学者を在籍者数の2%以内にする。(R3 2.8% R4 2.4% R5 3.5%)

*R8年度には部活動の生徒の加入率を50%とする。(R3 40.6% R4 44.0% R5 37.8%)

3 自ら未来を切り拓く生徒の育成

（1）基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、集団の中で好ましい人間関係の形成に努める。

（2）資格取得の指導を通じて、生徒にチャレンジ精神や達成感を醸成し、進路実現への意欲を高める。

（3）特別活動や生徒会活動など、協働してものごとに取り組む教育活動の促進。

（4）3年間の計画的・組織的なキャリア教育を通じて、生徒一人ひとりの自己実現を支援する。

*R8年度には資格取得者を卒業時において、全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰制度で取得した合計点数が10点以上の生徒割合を50%にする。(新規)

*就職希望生徒の100%合格を継続する。(R3 100% R4 100% R5 100%)

4 地域に信頼される魅力ある学校づくり

（1）地域（保育所・地元企業・地域区役所等）や他の高等学校等との連携を深め、生徒が社会と直接つながる「社会に開かれた教育課程」を実現する。

（2）中学校との連携を深め、情報交換を密にするとともに、工業高校の学びの魅力を積極的に発信する。

（3）本校の特色ある教育内容を広く府民に情報発信し、学校PRに努める。

（4）ICTを活用するなどして校務の効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間や、学校の更なる魅力化に力を発揮できる環境をつくる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
アンケート回収率 生徒 95.5% 保護者 40.5% 教員 100% ○生徒 昨年度に比べて、肯定率が4ポイント以上の増減があった項目 「学校に行くのが楽しい」81.1%→87.3（+6.2%）	第1回 令和6年6月4日（火） ・本協議会の会長に高橋委員、副会長に阪口委員を賛成多数により選出した。 ・令和6年度学校経営計画及び学校評価について、全員賛成で議決された。

府立東淀工業高等学校

「授業は、わかりやすく楽しい」79.7%→83.9% (+4.2%) 「教え方を工夫している先生が多い」88.1%→92.9% (+4.8%) 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」77.4%→84.0% (+6.6%) 「学校生活についての先生の指導は納得できる」83.5%→88.7% (+5.2%) 「学校行事は、みんなが楽しく参加できるよう工夫されている」87.4%→91.5% (+4.1%) ・18項目のうち、6項目で肯定的回答が大きく上昇した。 ・特に「授業は、わかりやすく楽しい」が最も上昇している。理由としては1人1台端末を活用し、個別最適な指導が実現していることが考えられる。 ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」が6.6%上昇している。令和4年度と比較すると18.1%の上昇で、新学習指導要領の実施、PBLの導入やICT機器の効果的な活用のための教材開発等が考えられる。 ・「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が0.8%、「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」が0.2%減少している。より一層、教員が生徒に寄り添い、教員が身近で信頼できる学校づくりに努める必要がある。 ○保護者 肯定的回答が90%以上であった項目 「この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」93.2%→93.3% (+0.1%) 「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」88.9%→90.1% (+1.2%) 「先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている」93.0%→93.3% (+0.3) 「学校の生徒指導の方針に、共感できる」89.5%→91.2% (+1.7%) 「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」97.6%→93.3% (-4.3%) 「文化祭や体育祭・宿泊行事などの学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている」90.5%→93.4% (+2.9%) ・13項目のうち、6項目で肯定的回答が90%以上あった。 ・「この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」が93.2%については、「溶接甲子園」で最優秀賞、各種技能検定、「第1種電気工事士試験」への取り組みなど、各種コンクールや資格試験に取り組んでいることが考えられる。 ・「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」が93.3%については、昨年度より4.3%下降している。今後、進路指導課と各学年が連携を図り、保護者進路説明会やキャリア教育の充実を行う。 ・「この学校の部活動は、活発である」が57.8%で9.4%上昇している。在籍生徒は少ないが、部活動に取り組んでいる生徒が満足していると考えられる。 ○教員 肯定的回答が90%以上であった項目 「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」84.0%→90.9% (+6.9%) 「この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある」88.0%→95.4% (+7.4%) 「この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」86.0%→93.2% (+7.2%) 「生徒一人ひとりが、興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」86.0%→93.1% (+7.1%) 「体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。」74.0%→90.9% (+16.9%) 「校長は、自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。」88.0%→93.2% (+5.2%) 「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」94.0%→100% (+6.0%) 「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」94.0%→97.7% (+3.7%) ・29項目のうち、8項目で肯定的回答が90%以上あった。 ・「この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある」が95.4%については、放課後や長期休業中に目的意識のある生徒を中心に各種コンクール・資格・検定試験指導を行っていることが考えられる。 ・「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」が81.8%については、昨年度より12.2%と大きく下降している。各教科で電子黒板や1人1台端末の効果的な活用が進み、学習効果の検証の時期にあると考えられる。 ・「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」が97.7%については、実施年数を積み重ねることで、他教科でのICT機器の活用方法が参考となり、教員ひとり一人の授業力向上の意識が高まっていると考えられる。 ・一方で「学校として、部活動の活性化について工夫している」25.0%と低い数値となっているが、部活動以外に、資格取得の補習や、コンクール出場の練習（今年度は「溶接甲子園」で全国優勝など）などに積極的に取り組んでいることを伝えていく。 ・「教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている」47.7%、「この学校では、清掃がいきとどいている」47.7%と50%を下回っているため、今後の改善課題として教職員の共通認識のもと取り組む必要がある。	○昨年度より新たな取り組みなど進展が感じられ、学校の教育活動を評価している。 ○DXハイスクールへの応募・指定など、デジタル教育を推進させる本校の取り組みについて高く評価している。 ○各実業高校(商業・工業・デザイン)の特色を活かした校種間連携事業の活動や取り組みについて高く評価している。 ○学校で多くの資格取得に取り組んでいるので、保護者として1年生から資格の種類を知りたい。 ・配付した資料の説明を行った ○令和6年度かかわりづくりワークショップ振り返りシート集計結果について ○学校パンフレットについて ○知的障がい生徒自立支援コースの紹介について ○令和6年度学級担任及び在籍者数について ○進路状況について ○高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)について ○新聞(教育活動など)掲載された内容の紹介 第2回 令和6年11月29日(金) ・令和6年度学校経営計画及び学校評価(進捗状況)について説明後に協議され、全員賛成で議決された。 ○AIドリル「すらら」を活用した個別最適な学びを授業で取り入れ、習熟度別に人数を分けるなどの工夫を行い、基礎的な学力保障を行っていることを高く評価している。 ○学校においても1人1台端末の活用が進み、ネット社会が進んでいる。わからないことは人にではなく、生成AIに聞けばよい時代になってきているが、ネットによる詐欺にあわないような取り組みが必要である。 ○広報活動において、中学校向けの出前授業レシピなどを作成し、本校のものづくり教育などの特色を中学校にアピールする取組を高く評価している。 ・配付した資料1～6について説明を行った ○資料6について、本校生徒が溶接甲子園で優勝し、新聞、テレビ取材など多くのメディアに取り上げられている。 第3回 令和7年2月13日(木) ・令和6年度学校経営計画及び学校評価について説明後に協議され、全員賛成で議決された。 ○生徒アンケート集計結果において、昨年度より肯定的な意見が4%以上向上した項目が6項目あり、学校全体の取り組みが生徒にとって良い影響を与えていることを示しており、高く評価している。 ○保護者アンケート集計結果において、90%以上の肯定的な意見が6項目あり、学校の教育方針や学校運営が保護者の期待に答えられていることを示しており、高く評価している。 ○校内研究発表会において、生徒たちが主体的に取り組み、成果を発表する姿勢が素晴らしく感心した。社会で必要とされるスキルにも繋がる経験であり、今後もこの取組みを継続してほしい。 ○令和10年度開校予定の新工業系高等学校への質疑応答があった。 ○広報活動において、SNSやホームページを活用することで、中学生や保護者、地域社会だけでなく、より広い層に本校の魅力を伝えられており、情報発信の手段を効果的に取り入れている点を高く評価している。 ○本校の教育活動について、肯定的な意見が多く高く評価されている。 ・令和7年度学校経営計画及び学校評価(案)について、特に質問や意見などはなかった。 ・配付した資料1～2について説明を行った ○資料2について、NPO法人「CLACK」の協力で、教職員対象の生成AI利活用研修会の概要を説明した。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成	(1)「わかる授業」 の実践	(1) ①学習支援クラウドサービスの活用を更に進め、 効率的で「わかりやすい授業」を実践する。 ・互見授業週間を設定して、教員間で授業研究を 行い、意見交換を行う。 ②学習支援クラウドサービスの活用により観点別 評価を効率的に行うシステムを構築する。 ③1・2年生対象に5教科(国社数理英)対応の AI型学習ドリルを活用して、個別最適な学びを 進める。 ④リーディングGIGAハイスクール(アドバンスク ラス)指定を受けて、ICTの有効活用による学 習指導の研究をより一層進める。	(1) ①「授業は分かりやすく楽しい」 85%以上 [79.6%] ・公開授業週間を年間2回実施の 継続 [2回] ・「先生はICT機器を効果的に活 用している」95%以上を維持 [95.4%] ・「学校は生徒1人1台端末を効 果的に活用している」90%以上を 維持 [93.7%] ②ループリック機能などを用い た観点別評価のシステム構築 と、それを活用する教員70%以 上。[27.5%] ③1年生の「基礎講座」、1・2年 生の英国数を中心に授業でAI 学習ドリルを活用する教員を 全体の85%以上を維持 [85.7%] ④・授業でプロジェクトを活用す る教員90%以上を維持。[95.4%] ・「先生は授業で教え方を工夫し ている」90%以上 [88.1%]	(1) ①「授業は分かりやすく楽しい」[87.2%] (○) ・公開授業週間を年間2回実施できた。(○) ・「先生はICT機器を効果的に活用している」 [96.2%] (○) ・「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用し ている」[94.3%] (○) ②観点別評価を行うとき、ループリック(評価 基準表)を設定して評価している。 [88.0%] (◎) ③1年生の「基礎講座」、1・2年生の英国数を 中心に授業でAI学習ドリルを活用する教員 は全体の56.2%であった。(△) ④・授業でプロジェクトを活用する教員[100%] (◎) ・「先生は授業で教え方を工夫している」 [92.9%] (○)
	(2)「生徒の興味関 心を高める授業」 の実践	(2)「キャリアガイダンス」「基礎講座」(以上1 年次)「総合的な探究の時間」(2年次)を軸に、 教科横断型・探究型の授業を展開する。PBL(課題 解決学習)の手法を活用して、「ものづくり」を自 らの将来や社会と繋げるなどしながら、深く考 える力を養う。	(2) ・「授業内容に興味関心を持つこ とができた」85%以上 [83%] 「授業で自分の考えをまとめたり、 発表する機会がある」80%以 上 [77.4%] ・PBLにおける各学年(今年度は 1・2年生)の生徒発表会をそ れぞれ年1回以上。[1年生1 回、2年生3回] ・「自分のキャリアや進路につい て考え、意識できた」70%以上を 維持 [72.1%]	(2) ・「授業内容に興味関心を持つことができた」 85%は超えられなかったがほぼ達成している。 [84.5%] (○) 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する 機会がある」[83.9%] (○) ・PBLにおける各学年(1年生:2回・2年生: 3回)で生徒発表会をそれぞれ年1回以上実 施した。(○) ・「自分のキャリアや進路について考え、意識で きた」[92.5%] (○)
	(3) 専門分野の技 術・技能の向上。新 たな「ものづくり」 教育への挑戦	(3) Society5.0と言われる今後の産業会で必要 とされるデジタル技術等を積極的に取り入れ、実 習内容の見直しや新たな実習の検討を行う。 ・令和4年度に導入した五軸マシニングセンタを 活用した新しい「ものづくり」を発展させる。 ・ドローンに関する操縦技術の習得・プログラミ ングなどに取り組む。 ・上記以外にもデジタル技術を活用した「新しい ものづくり」の教育内容を積極的に取り入れ、 新工業系高等学校(本校の校地に令和10年度開 校予定)のカリキュラムに継承できる教育内容 につなげる。 ・令和5年度学校経営推進費 「東淀ロボット人材創出計画ーロボット S1er の育成」	(3) ・授業アンケート「授業を受けて、 知識や技能が身についたと感 じている」85%以上 [83.9%] ・3年間を見通した系統的なデジ タル技術教育のカリキュラム の作成と、新しい実習内容の導 入。 ①国家資格技能検定シーケンス 制御作業受験者数(10名以上) [11名] ②「高校生ロボットインテグレー ション競技会」基礎課題完成 ③「ロボットアイデア甲子園!」 書面審査通過[大阪大会 敢闘 賞]	(3) ・授業アンケート「授業を受けて、知識や技能 が身についたと感じている」[84.8%] (○) ・新しいものづくり実習として、五軸マシニン グセンタの同時五軸加工・産業用ロボット教 示・デジタルものづくり・データサイエンス・ プログラミング等の実体験型アプリケーシ ョン導入・ネットワーク構築に取り組んだ。 (◎) ・ドローンに関する操縦技術の習得・プログラ ミングなどに取り組んだ。(○) ① 国家資格技能検定シーケンス制御作業受験 者数(10名以上) [1名] (△) ②「高校生ロボットインテグレーション競技 会」優秀賞(全国全体2位) (◎) ③「ロボットアイデア甲子園!」書面審査通過 [大阪大会 敢闘賞2名] (◎)

府立東淀工業高等学校

2 安心・安全な学校づくり	(1) 生徒が安心・安全で学ぶことができる「居場所づくり」	(1) ①大学（立命館大）と連携する「かかわりづくりワークショップ」、NPO やフードバンクと連携する「放課後カフェ」、部活動などを通じて、生徒一人ひとりが自分の「居場所」と言える場所を見つけることができる環境づくりの充実を図る。 ②図書館を学力向上や基礎的教養を深める場所であるとともに生徒にとって身近でかつ活用しやすい場所となるよう工夫する。	(1) ①「学校に行くのが楽しい」80%以上を維持 [81.8%] 「自分の学級は楽しい」85%以上を維持 [86.5%] ・部活動加入率 46%以上 [37.8%] ②昨年度立ち上げた図書委員会の役割を明確にし、図書室の開館時間や図書活動の充実を図る。 ・「図書館だより」を各学期 1 回発行。	(1) ①「学校に行くのが楽しい」[87.3%] (○) 「自分の学級は楽しい」[89.6%] (○) ・立命館大学の教授を招聘して「かかわりづくりワークショップ」の教員対象の研修を実施した。それを踏まえ、入学式の次の日に新入生対象の「かかわりづくりワークショップ」を実施した。 ・認定 NPO 法人 CLACK と連携して「放課後カフェ」を 20 回実施した（総参加者 495 名）。 ・部活動加入率 [33.0%] (△) ②図書室の開放をはじめ芸術鑑賞の実施など図書委員会がうまく活動し、図書・芸術活動の充実を図ることができた。(○) ・「図書館だより」を発行できなかった。(△)
	(2) 個に応じた細やかな指導体制の構築	(2) ①全生徒対象に、総合分析シート（中学校・保護者からの情報、成績、学校生活アンケート・教員分析などの一覧表）を作成し、教員で情報の共有化を行う。またスクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)などと連携しながら、必要に応じて「個別の指導計画」等を作成するなど、一人ひとりのニーズに対応した指導を充実させる。 ②自立支援コースの生徒に対しては、上記の内容に加えて、合理的配慮の観点から授業のユニバーサルデザイン化を図り、進路希望に合わせた実習計画・教育支援を行うなど支援体制の整備に取り組む。	(2) ①「担任の先生以外（SSW・SC 含む）にも相談することができる先生がいる」85%以上を維持 [87.1%] ②自立支援コース生徒の希望進路達成率 100% [66.6%] ・各教科の授業におけるユニバーサルデザインの手法を検討し、共有化することにより、「東淀版授業のユニバーサルデザイン」を作成する。	(2) ①「担任の先生以外（SSW・SC 含む）にも相談することかのできる先生がいる」[86.8%] (◎) ・SC のアドバイスを活用しながら 1 年生の実態把握を行い、総合分析シートを作成し支援が必要と思われる生徒に対して保護者との面談を行った。今年度は 1 名について、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、対象生徒のニーズに応じた指導を実施した。 ②自立支援コース生徒の希望進路達成率 [66.6%] (△) ・「東淀版授業のユニバーサルデザイン」の作成のために、教員対象の研修を東淀川支援学校の指導教諭を招聘し実施した。授業の UD デザイン化モデルの「参加」「理解」「習得」については研修で教員間で確認できたが、「活用」については本校の課題であることに気づけた。(○)
	(3) 人権教育・安全教育の充実	(3) ・人権講演会等の充実・活性化に努める。LGBT や SDGs など多様な人権テーマに取り組む。 ・交通安全・SNS・薬物に関する講習などを実施し、各々の知識の提供と生徒の意識の向上を図る。	(3) ・人権講演会を 1 回以上、各学年人権学習会を 1 回ずつ実施【講演会 2 回、学習会各学年 1 回】 ・生徒アンケート「人権について、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持 [91.2%]	(3) ・人権講演会について生徒対象を 1 回、教員対象を 1 回実施した。各学年人権学習会についても 1 回ずつ実施した。(○) ・生徒アンケート「人権について、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」[92.0%] (○)
	(4) 健康管理・安全衛生の意識向上	(4) ①生徒保健委員会による感染症への感染予防等の啓発活動（昼休みの放送等） ②健康診断後、検査勧告された者に対して医療機関への受診指導を徹底して行う。 ③生徒が自身の健康等について安心して相談できる体制の充実。	(4) ①学校保健委員会を年 1 回開催し、調査報告等を実施する。 ②受診率 10%増 [12.4%増] ③「担任の先生以外（SSW・SC 含む）にも相談することができる先生がいる」85%以上を維持 [87.1%] ・Web や学習支援クラウドサービスを活用し「健康相談窓口」周知機会を増やす（月 1 回以上）。	(4) ①昼休み放送で啓発活動を毎日実施した。また学校保健委員会を年 1 回開催し、生徒保健委員会の活動報告をした。(○) ②健康診断全項目中、特に「歯科」の受診勧告者数が前年 165 人から 266 人（前年の 161%）と大幅に増えたこともあり、声かけを積極的に行ったが全体の率を大きく上げることができず、全項目平均では [9.0%] の受診率となった。(△) ③「担任の先生以外（SSW・SC 含む）にも相談することができる先生がいる」[86.8 %] (○) ・Web での「健康相談窓口」の周知機会（月 1 回以上）。(○) Web 相談や学習支援クラウドサービスの周知等、生徒が自身の健康等について安心して相談できる体制構築を促進した。保健室やスクールカウンセラー相談回数は昨年度より 150%増加した。

府立東淀工業高等学校

3 自ら未来を切り拓く生徒の育成	(1) 基本的生活習慣の確立・規範意識の向上	(1) ①・時間を守る、挨拶や言葉遣い、服装などの社会人基礎力の向上を徹底する。 ・毎朝、校門であいさつ運動を実施（生徒会も随時参加）し、生徒への声かけ、風紀指導も行う。 ・遅刻常習の生徒に対して対話を取り入れた遅刻指導に取り組む。 ②生徒会で、「学校生活の目標」を設定し、生徒会新聞などを使って発信し、学校生活の充実を図る。学期単位での目標設定を行う。	(1) ①生徒アンケート「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」90%以上 [89.5%] ・遅刻者数 1000 件以下 [1325 件] ・遅刻数が多い月に遅刻防止週間を新たに設定する。 ②生徒会が中心となり、毎月「学校生活の目標」を生徒自ら設定し、教室掲示やキャンペーンなど啓発活動を行う。	(1) ①生徒アンケート「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」[90.5%] (○) ・遅刻者数:1539 件 (昨年 12 月 1101 件と比較) 昨年同月と比べて 214 件増加。(△) ・過去のデータから 11 月の遅刻数が一番多かったため新たに設定するとともに、遅刻数削減の取組みとして、月間遅刻数 0 件のクラスに賞状を授与した。(○) ②学校生活の目標を生徒自ら設定する活動はできなかったが、12 月に生徒会による朝の挨拶運動を行った。初日は 4 人と半数しか集まらなかったが、2 日め以降は全員が参加し挨拶の大切さを体験できた。(○)
	(2) 高度な資格取得や各種競技大会に参加	(2) ・3年間を通じて、将来に活かせる各種国家資格や検定へのチャレンジを支援し、生徒が達成感を得ることで自己肯定感に繋げていく。 ・各種競技大会に参加する大会回数を増やし、工業高校の魅力を発信する。 ・特色のある課題研究の実施など、生徒の「ものづくり」への興味・関心を引き出す。	(2) ・資格取得にチャレンジする生徒の割合を前年度より増加させる。[359 名] ・ジュニアマイスター取得者の増加をめざす。 [計 16 名:特別表彰 1 名 ゴールド 6 名、シルバー 3 名、 ブロンズ 6 名]	(2) ・資格取得にチャレンジした生徒の延べ人数 [253 名] (△) ・ジュニアマイスター取得者 (△) [計 13 名:特別表彰 3 名、ゴールド 3 名、 シルバー 5 名、ブロンズ 2 名]
	(3) SDGs への取り組み	(3) 生徒会が主体となり、NPO と連携して昨年度開始した SDGs の取組みを継続して実施する。	(3) 学校全体で SDGs の 1 分野についての取組を実施する。	(3) 今年は、ペットボトルキャップを粉砕する機械の不調で新規で材料を揃えることが出来なかった。生徒会の生徒には、昨年 of 材料にて作品を作成し再生利用 (SDG s) の必要性について考えた (○)
	(4) 組織的・計画的なキャリア教育	(4) ①・外部教育機関・地域などと連携しながら、生徒の進路意識を高める進路説明会・出前授業等を実施する。 ・キャリアパスポートやガイダンスを活用し、生徒が学習プロセスを振り返り、見通しを持って、将来を見通したキャリア形成と、自己実現につなげる指導を行う。 ②就職活動において ICT の活用を更に進める。	(4) ①・生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%以上を維持 [89.8%] ・就職希望生徒の内定率 100% (就職一次試験の内定率 85%以上) を維持する。 [100% (86%)] ②ICT を活用して、求人票閲覧など生徒が効率的に情報収集等を行える体制を整える。	(4) ①・生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」[92.5%] (◎) ・就職希望生徒の内定率 100% (就職一次試験の内定率 85%) (○) ②デジタル求人票を活用し、就職活動に役立った。(○)

府立東淀工業高等学校

4 地域に信頼される魅力ある学校づくり	(1) 地域連携の深化	(1) ・保育所との交流：インターンシップ、生徒作品（玩具製作）の寄贈 ・地域 NPO との連携：生徒への情報教育（プログラミング技術の習得） ・地域区役所・地域企業との連携：工場見学・インターンシップ等の工業実習でのコラボ ・淀川区選挙管理委員会との連携：選挙権講演会実施 ・地域：生徒会が中心となる清掃活動	(1) 各交流・連携事業の実施状況で評価。年間 10 回以上	(1) 各交流・連携事業実施の結果、年間 10 回以上取り組むことができた。(○)
	(2) 中学校との連携の深化	(2) 学校の魅力発信のため、地域の小中学校向け出前授業、中学校個別の説明会等への参加。	(2) 出前授業・年間 3 回以上【5 回】 ・中学校個別の学校説明会等への参加 3 回以上 [2 回]	(2) 出前授業・年間 8 回 (◎) ・中学校個別の学校説明会等への参加 6 回 (○)
	(3) 情報発信・学校 PR	(3) 広報委員会が中心となり、SNS 等を活用した広報を進める。ホームページはもとより、写真動画投稿サービスを活用し、本校のものづくり教育や本校の特色を中学生・保護者などに積極的にアピールする。	(3) 月間 6 本以上の写真動画投稿サービスへの掲載 [年間 80 本]	(3) ・ホームページ更新数 189 件(2024. 4. 1～)、SNS を活用した動画配信投稿数 年間 215 回 (◎)
	(4) ICT による校務の効率化	(4) 教職員間で、学習支援クラウドサービスを活用した連絡・データの共有化、会議・連絡会等のリモート・資料のペーパーレス化等を進めることにより、準備や会議時間の短縮、紙の削減を進める。削減した時間を生徒指導や学校の魅力化等に有効的に振り向ける。	(4) 教員アンケート ・「ICT の活用により校務が効率化されている」 90%以上を維持 [92%] ・校内紙使用量前年度比 5 %減 [25%減]	(4) ・「ICT の活用により校務が効率化されている」 [93. 0%] (○) ・校内紙使用量は前年度比約 19%削減 (○)